

いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

三陸復興

第60号
(平成26年3月15日号)
岩手県

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

春を前に、沿岸地域、岩手県にとって忘れることのできない3月。あの日を想い、将来への決意を新たに、復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

岩手県・山田町合同追悼式が開かれました

山田町

東日本大震災津波が発生したあの日から3年を迎える3月11日。岩手県・山田町合同追悼式が山田町中央公民館（同町八幡町）で開かれ、ご遺族や関係者など400人以上が参列しました。

開会に先立ち、華道家・前野博紀さんが奉納献花を行い、震災が発生した14時46分には参列者全員が黙祷を捧げました。

東日本大震災津波により、岩手県内では、4,672名の尊い命が奪われ、今もなお、1,142名の方々が行方不明になったままです。（平成26年2月28日現在）

達増知事は、式辞で「失われたものはあまりにも大きく、哀惜の念に堪えません。時の経過とともに、この大災害について報じられる機会が減少するなど、大震災津波の風化が懸念されています。今を生きる私たちは、犠牲になられた方々の遺志に報いるためにも、東日本大震災津波の惨状や、その経験の中で得られた教訓を改めて心に刻み、後世に伝えていくという使命を果たしていかなければなりません。県としても、本年を本格復興推進年と位置付け、市町村や国と一体となり、様々な方々と連携しながら、防災施設の整備等による安全の確保、住宅、宅地の整備をはじめとする生活の再建、水産業などのなりわいの再生をさらに進め、未来につながる復興を強力に推し進めてまいります」と復興への決意を述べました。

また、ご遺族を代表して、山田町飯岡の内館伯夫

震災から3年。復興への決意新たに



追悼式典の祭壇

(みちお)さんは「亡くなられた皆さんが感じた恐ろしさ、冷たさ、悔しさを思えば、生きている私たちの困難は乗り越えなければならないと思います。大切な人を亡くした私たちの悲しみと悔しさを、何かを許したり、誰かを思いやったり、時には人の手助けとなることで、優しさに変えてゆくこと、そして生きている私たちが、当たり前のことを幸せだと感じ、一日一日を大切に生きることが、亡くなられた皆さんに対する最大の敬意であると信じ、毎日を過ごしていきます」と追悼の辞を述べました。

閉会後に行われた一般献花には、山田町の方々などの大勢の方が訪れ、捧げる花に、在りし日の大切な方々への想いを寄せ、残された自分たちのこれから、決意を新たにする一日となりました。



華道家・前野博紀さんによる奉納献花



献花し、手を合わせる参列者



遺族代表・内館伯夫さんによる追悼の辞

いわて復興応援団(員)大募集中!

知って、買って、食べて、行って応援!

登録無料



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員(個人)と応援団(法人及び団体)の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

大槌中学校「語り部プロジェクト」が カナダ・ビクトリア市で開催されました

東日本大震災津波で被害を受けた大槌町立大槌中学校では、全国からの支援に感謝する気持ちを伝えるため、生徒らが県内外に出向き、交流しながら復興への想いを伝える「語り部プロジェクト」に取り組んでいます。

この「語り部プロジェクト」が2月21日（金）～22日（土）、太平洋を越えたカナダ・ビクトリア市で開催され、同校3年生で歌手の白澤みさきさんが「語り部」を務めました。

ビクトリア市は、盛岡市の姉妹都市として交流を深めており、震災直後から多くの支援をいただいています。

今回の企画は、支援に対する感謝の気持ちを伝えるため、盛岡ビクトリア友好協会の協力のもと実現されました。

「語り部プロジェクト」は、同市の市役所、セントマーガレット高校、クライストチャーチ大聖堂の3か所で開催。白澤さんが、写真や映像を交えながら震災の様子や学校生活の様子を紹介し、歌声も披露。

会場には多くの市民が集まり、大きな拍手に包まれました。

白澤さんは「ビクトリア市からの支援で中学校の行事やイベントができたことへの感謝の気持ちを伝えたかった。みなさんが熱心に話を聞いてくれてとても嬉しかった」とビクトリア市とのつながりを感じている様子でした。



震災からの大槌の様子を発表する白澤みさきさん

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第15回目は、鹿島卓弥さんを紹介します。

PROFILE

千葉県富津市出身。広告代理店営業職からの転職のタイミングで、個人事業主として復興のコーディネーターを行う「釜石リージョナルコーディネーター（通称：釜援隊）」を知り、昨年4月に釜石に移り住む。

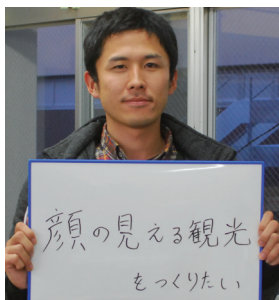
現在、「釜援隊」の隊員として、釜石市観光交流課で情報発信やイベントなどをサポートしている。

釜石の人の魅力

鹿島さんは、釜石市からの委託を受け、釜石市観光交流課で、facebookやホームページでの情報発信、農業体験や漁業体験を通じて釜石の魅力を知ってもらうグリーンツーリズムなどをサポートしています。

未来の さんりく びと

釜石リージョナル
コーディネーター
鹿島卓弥
(かしまたくみ)さん



鹿島さんからのひと言：
顔の見える観光をつくりたい

「被災地だからまだ観光はできないのではないかとされているようですが、実際に来てみると楽しめる場所も多い。市外の方々には、まずは釜石に来てもらい、釜石の「人」に逢ってほしい。自分から発信するのは苦手なものの、熱い気持ちを持った人が多い。釜石の魅力のひとつは、人の魅力であると思う」と語ります。

大切な人へ向けた「釜石からの手紙」

鹿島さんはまた、「釜石からの手紙」にも携わっています。これは、オリジナル絵はがきを購入して専用ポストに投函すると、2014年3月11日付の消印で大切な人のもとに届くという企画。最近の釜石の様子や変化、感謝の気持ちなどを伝えるきっかけになればと企画されました。鹿島さんの「人」を大切にしたいという想いが感じられます。

「顔の見える観光をつくりたい」という鹿島さん。観光を通じて、釜石を盛り上げてくれることが期待されます。

岩手県の被害状況

平成26年2月28日現在

- ▶人的被害 死者（直接死）：4,672名 行方不明者：1,142名
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 25,706棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年2月28日現在

- ▶義援金受付状況 約179億5,467万円（8,247件）
- ▶寄付金受付状況 約186億9,077万円（6,612件）
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約63億9,807万円（12,256件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!! <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第60号 平成26年3月15日 企画・発行：岩手県復興局総務企画課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス